

いわて型コミュニティ・スクールの取り組みについて

「家庭・地域との連携・協働による教育活動を中心に」

矢巾町立矢巾東小学校
校長 山内 昭

1 学校の概要と児童の実態

(1) 本校学区は矢巾町の北東部に位置し、盛岡市と隣接する豊かな田園地帯である。しかし、近年の宅地開発に伴い、盛岡市のベッドタウン的様相が加速し、町内にある煙山小学校が急激な児童増となり、マンモス化を解消するため、平成16年4月に本校が分離・新設された。そのため、開校7年目と歴史は浅いが、新たな校風と伝統を築き上げようと、児童・教職員・保護者・地域が一体となって教育活動を展開している。

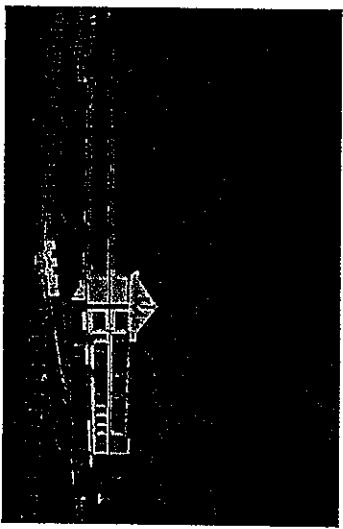
(2) 児童数・学級数・教職員数(平成22年12月1日現在)は表のとおりである。児童数は、開校時501名でスタートし、年々増加の一途をたどり、21年度には638名となったが、今後数年は横ばいから減少傾向である。しかし、岩手医科大学の教育施設や付属病院等の本格移転に伴い、児童数が増加傾向に転ずることも見込まれる。

| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 特別支援 | 計 | 教職員数 |
|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|------|-----|------|
| 児童数 | 104 | 91 | 115 | 112 | 94 | 104 | 7 | 627 | 37 |
| 学級数 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 1 | 19 | |

(3) 学校施設は、全教室オーブンスペースで木の香り漂う明るく開放的なつくりで、アリーナや校庭も広く、全館暖房など最新の設備が整っている。また、太陽光発電や雨水利用の水洗トイレなど、エコスクールとしての設備も整い、充実した施設環境となっている。

(4) 児童は、明るく素直で、児童数は多いが全体的に落ち着いており、大きな問題行動や不適応等はあまり見られない。また、学習や諸活動には真面目に取り組み児童が多く、学力も比較的高い。しかし、家庭での生活の仕方を見ると、テレビ視聴やゲームをする時間が長く、家庭学習や読書の時間確保と内容の充実等、さらなる向上を図っていく必要がある。

(5) 新しく移り住んだ家庭の児童が多く、核家族化も進んでいるため、世代間交流は少なく、郷土理解は希薄な面が見られる。キャリア教育や世代間交流等を意図的に推進し、郷土理解や郷土愛の育成を図っていく必要がある。



2 地域の特徴

(1) 本校学区は、10地区で構成されているが、新興住宅地をかかえる地区が多く、従来からの住民と新しい住民とが混在しており、コミュニティとしては形成的段階であり、組織的に脆弱な地区も見られる。しかし、矢巾町は各地区の自治公民館を拠点とした地域コミュニティ活動が盛んなため、各地区コミュニティ役員リーダーシップのもと、積極的に地域事業が展開され、住民の連帯感、コミュニティとしてのまとまりはかかなり醸成されてきている。なお、岩手医科大学の本格移転に伴い、新しい住民が増えるなど、地域コミュニティの変化が予想される。

- (2) 矢巾町は教育振興運動が盛んで、町内4つの振興区(小学校区)ごとに、独自の活動が展開されており、学校・家庭・地域・行政が連携・協働して児童を育成する基盤ができています。本校振興区も、10の実践区で組織され、あいさつ運動やふれあい運動を重点とする活発な活動が展開されています。
- (3) 本校は開校7年目という新しい学校であるが、地域コミュニティや教育振興運動、PTAや親父の会などの連携により、学校周辺の環境整備、児童の安全な登下校を見守るスクールガードや読み聞かせのボランティア活動なども組織的に行われており、家庭・地域の学校への協力体制はかなり構築されてきている。しかし、中にはこうした活動に無関心であったり、非協力的であったりする家庭も見られる。地域におけるあいさつ運動やふれあい運動等をさらに活発にするなど、豊かな人間関係づくりの推進が必要である。

3 学校経営と型コミュニティ・スクール構想との関連

- (1) PDCAサイクルによる検証可能な目標達成型の学校経営を実現するため、学校経営の重点を絞り込み、分かりやすく表現すると共に、達成目標、指導の場や方策、家庭や地域への協力依頼などをできるだけ具体的に示し、教職員、児童、保護者、地域の方が目標を共有しながら、連携・協働による教育活動を推進する。(学校経営計画とまなびフェストの作成・配布・掲示、学校経営説明会・教育振興運動振興区総会・校報などでの説明)
- (2) 教育活動の進捗状況や達成目標の実現度を把握するため、まなびフェストについては教職員、児童、保護者による自己評価を、学校経営の重点や学校運営については教職員による自己評価と学校関係者評価(学校評議員、PTA役員)を、それぞれ年2回実施して結果を公表すると共に、改善点を協議し、次年度の教育活動に生かす。
- (3) 学校教育目標の具現化を図る経営方策として、いわて型コミュニティ・スクールステップ事業や学校支援地域本部事業を活用すると共に、教育振興運動とも連携し、学校・家庭・地域の連携・協働を意図的・計画的に推進する。
- (4) 児童の好ましい人間関係の醸成や社会的自立、地域社会の変化への対応能力等の向上を目指し、キャリア教育や世代間交流を推進することにより、児童の郷土理解や郷土愛の育成を図る。
- (5) 学校・家庭・地域の連携・協働を推進するために、コミュニティ会長、行政区長、自治公民館長、学校評議員、PTA役員等との連携を深め、学校・家庭・地域の教育力の向上を目指す。
- (6) 学校・家庭・地域が協働であいさつ運動を展開することで、開校以来の特色ある学校づくり推進事業である「スマイルあいさつ運動」の地域への拡充・浸透を目指す。

4 家庭・地域と連携・協働した教育活動

(1) 郷土理解を促す「地域に関わるお話を聞く会」の実施

矢巾町で活躍している地域の方々に講師として、様々なテーマで講演会や実技指導を実施し、地域で働く喜びや経験を学んだり、生き方にふれたりすることによって、郷土や職業への理解を深め、郷土を愛する心情を育むと共に、夢や希望をもって生活する一助とすることができた。これまで実施してきた講演会や実技指導のテーマは以下のとおりである。

- ・「郷土に伝わる昔遊び」, 「本との出会い」, 「米作りと私」(19年度)
- ・「マイドリーム」(キャリア教育と運動し、各種職業に就いている方の話)(20年度)
- ・「本の読み聞かせ」, 「学習発表会の演技指導」, 「豆腐の話」, 「歯の健康」, 「スポーツ指導」, 「農業講話」(21年度)
- ・「喫煙による体の害」, 「マイドリーム」(22年度)



「マイドリーム」の講演



講師先生を囲み質問タイム

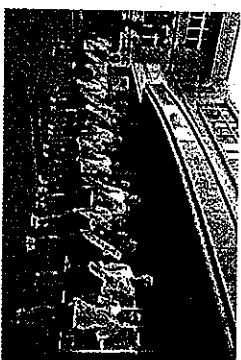
(2) 「スマイルあいさつ運動」の地域への拡充・浸透

① 「スマイルあいさつ」幟旗の設置

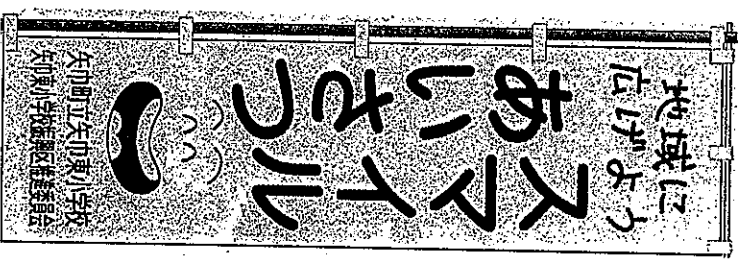
学校・家庭・地域があいさつ運動に協働で取り組み、拡充・浸透させるために、平成20年度より学校周辺や各地域に「スマイルあいさつ」幟旗を設置している。登下校時はもちろん、それぞれの地域でも目にするこことよって、大人も児童もより一層あいさつを意識し、地域の中でも心のこもったあいさつ運動が展開され、地域コミュニケーション形成の一助となっている。

② 「スマイルあいさつ」幟を着用したあいさつ運動

開校以来、特色ある学校づくりの一環として取り組んでいる「スマイルあいさつ運動」の継続・発展を願ひ、児童会執行部並びにJRC委員会の児童が中心となり、「スマイルあいさつ」の幟を着用して毎週2回、年間を通して朝に校門や昇降口に立ち、あいさつ運動を展開している。協力したいという児童には幟を貸し出し、スマイルあいさつ隊員として一緒に活動する。本校児童のみならず、学校周辺を通る中学生や地域の方々にもあいさつを行い、スマイルあいさつの輪が広がっている。



幟を着用してあいさつ運動



あいさつ運動幟旗

(3) 学習の成果を家庭や地域に発信する活動

① 「金管バンド」装備の整備・充実と成果の発表

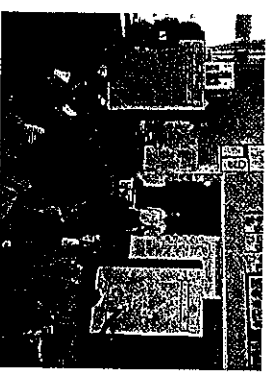
保護者や地域の願ひを受け、開校当時に結成された本校金管バンドは、矢巾町の消防演習や防犯パレードなどの地域の行事、学校行事等において、その成果を発表している。ユニフォームを新調したり、カラーガード用のフラッグやバトン等を購入したりして装備を充実させ、保護者や地域の期待に応えている。



消防演習でマーチング発表

② エネルギー・環境学習の成果を家庭や地域に発信

本校は開校以来、生活科、社会科、理科、総合的な学習の時間などを使ってエネルギー・環境学習に熱心に取り組んでいる。学習は見学学習や出前授業の実施など、矢巾町役場、東北電力、岩手大学などの専門機関の協力を得て行っている。学習した成果は、授業参観日に発表したり、標語やポスターにしたりして、節水、節電、リサイクル等を家庭や地域に積極的に呼び掛けるなど、エコ活動の大切さを発信している。



エミダイエット作戦の発表

(4) 農業体験学習の実施

① 稲作体験学習

地域の方から学校近くの水田を借用し、毎年5年生の児童が稲作体験学習を行っている。体験学習は、5月の田植えに始まり、継続した生育観察、9月の案山子製作と設置、10月の稲刈りとほせがけ、11月の収穫した新米を使った調理実習、餅つき・感謝の会まで、約7か月間続く。体験学習は、JAの職員や地域の方々の指導のもと保護者の協力も得て行う。また、収穫した新米を使った調理実習や餅つきは、矢巾町食生活改善推進協議会の皆さんの協力を得て行う。感謝の会では、つき立ての餅を郷土食「お汗餅」にしてお世話になった方々と共に感謝しながらいただく。郷土理解を深める貴重な体験学習の場となっている。



実りの秋を実感する稲刈り

実りの秋を実感する稲刈り

② 畑作体験学習

校地内にある栽培園を活用し、全学年の児童が野菜作りの体験学習を行っている。体験学習は、5月の苗植えに始まり、継続した生育観察、7～9月の収穫まで、約5か月間続く。畑作体験は、土作りや苗の植え方、世話の仕方などを地域の農家の方に指導していただく。収穫した野菜は、家庭に持ち帰ったり、学校でおいもパーティーやサラダパーティーなどを開いたりして自然の恵みを味わう。



サツマイモの収穫

・作物：サツマイモ（1年生）、ジャガイモ・ミニトマト（2年生）、キャベツ（3年生）、キュウリ（4年生）、エダマメ（5年生）、ジャガイモ（6年生）、カボチャ・キュウリ・ナス・ミニトマト・エダマメ（よつば学級）

(5) 家庭での望ましい学習習慣、生活習慣の育成

① 「学習の手引き」による家庭学習の習慣化

矢巾町では家庭学習の充実を期し、年度初めに各学年の発達段階に合わせた「学習の手引き」を町内全児童・生徒に配布する。この手引きをもとに学校・家庭が共通理解して家庭学習に取り組みせると共に、読書やテレビ視聴等も含めた生活の仕方の見直しをもたせ、望ましい家庭学習の習慣化を図っている。

② 「元氣もりもりカード」による生活習慣の定着

望ましい生活習慣の定着を図るため、「元氣もりもりカード」を活用した取り組みを年2回行っている。本校の学校保健委員会やPTA厚生部と連携した取り組みで、家庭での「早寝・早起・朝ごはん」や「歯みがき」の様子を1週間保護者に点検してもらう。取り組み状況を把握できることや実行しようとする意欲喚起に効果的である。調査結果は学級指導に役立てると共に、保健だよりや校報等で家庭にも知らせている。

③ 「家庭生活カード」を活用した生活の見直し

家庭学習や家読30分への取り組み状況を把握するため、7月に高学年の児童を対象に「家庭生活カード」による学習・読書・テレビ・ゲームの時間を1週間調査した。結果は、テレビやゲームの時間が長い児童ほど読書をしていないという傾向が顕著であった。そこで、家庭での過ごし方を見直し、節度あるテレビ視聴とゲーム時間を家庭で話し合い、読書の時間も確保するように指導を行うと共に、校報で家庭へも協力を依頼した。11月に2回目の調査をした結果では、テレビやゲームの時間が減り、読書の時間が増えるという好ましい変化が見られている。

平日・休日の過ごし方（家庭での勉強・読書・テレビ・ゲームの時間）

| | 5年生 | | | | 6年生 | | | |
|-----|------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|
| | 平日 | 休日 | 平日 | 休日 | 平日 | 休日 | 平日 | 休日 |
| 学習 | 68.0 | 73.0 | 54.0 | 58.0 | 66.7 | 74.4 | 61.0 | 77.4 |
| 読書 | 60.2 | 66.4 | 46.0 | 53.0 | 64.0 | 72.0 | 59.5 | 59.0 |
| テレビ | 16.0 | 21.0 | 21.0 | 35.0 | 20.6 | 40.5 | 28.0 | 62.8 |
| ゲーム | 31.0 | 31.8 | 28.5 | 39.5 | 28.2 | 36.8 | 39.5 | 52.5 |
| | 97.0 | 105.0 | 145.0 | 133.0 | 81.1 | 71.2 | 135.0 | 103.0 |
| | 78.2 | 73.4 | 127.0 | 118.0 | 64.0 | 65.2 | 104.0 | 99.0 |
| | 34.0 | 11.0 | 87.0 | 27.0 | 36.9 | 14.4 | 70.0 | 27.1 |
| | 29.2 | 9.8 | 58.5 | 17.0 | 22.2 | 9.0 | 46.5 | 22.5 |

注1：表内の数値は、本校5年生96名、6年生105名の各項目の平均時間を表し、単位は分。
注2：各項目上段の調査期間は平成28年7月9日（金）～15日（水）の1週間。
下段の調査期間は平成22年11月8日（月）～14日（日）の1週間。

(6) 「家族読書デー」への取り組み

家庭での読書活動を盛り上げようと、PTA教委部が中心となり、教育振興運動の一環として

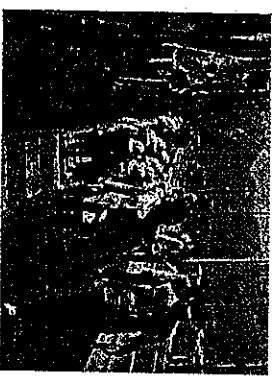
「家族読書デー」の取り組みを行っている。7月～10月の第2・第3日曜日を「家族読書デー」とし、児童と保護者が同じ本を読み、「ふれあい読書カード」に、いっしょに読んだ家族の名前や書名、感想などを書いて提出してもらおう。今年4年目となるが、カードの回収率は全校で94.9%と高く、定着してきている。カードは公民館振興大会・教育振興運動集約集会の会場や校舎内に展示し、児童や保護者、地域の方々に見ていただいている。

「ふれあい読書カード」の感想から
 ○家族読書を通して、家族がいっしょになる時間が増えてよかった。(5年生児童)
 ○家族読書の取り組みがなければ子どもといっしょに同じ本を読むことはなかったと思う。子どもがどんなことに興味をもっているのかわかることができたり、それぞれの考えを話し合う機会をもてよかった。(5年生保護者)

⑦) 学校支援ボランティアの活動とボランティア養成講座の実施

① 「スクールガード」による安全確保

本校のスクールガードは、平成18年度から始まり、学区の各行政区から推薦していただいた方々30名、PTAからの協力者10名の計40名ほどで組織されている。通学路での見守りのほか、登下校時に同行したり、交通安全の声かけをしたりと、献身的に活動していただいている。なお、学校支援地域本部事業によるボランティア養成講座の一環として、毎年スクールガード講習会を実施し、スクールガード事業への理解を深めていただいている。



スクールガードに守られ下校

② 「おはなしばけつと」による読み聞かせ

本校には、開校時から読み聞かせサークル「おはなしばけつと」という図書ボランティアが組織され、朝学習の時間帯を利用して学級ごとに読み聞かせをしていただいている。月1回であるが年間を通して実施され、児童も楽しみにしており、読書への興味・関心を高める一助となっている。なお、スクールガードと同じように、毎年読み聞かせ講習会を実施し、活動の輪を広げている。



楽しい読み聞かせの時間

⑧) 感謝の気持ちを伝える「ありがとう集会」の実施

毎年、2学期後半～3学期に、普段お世話になっている皆さんをご招待し、感謝の気持ちを伝える「ありがとう集会」を実施している。集会では、ご招待した皆さんに各学年の児童が書いた感謝の手紙を一人お一人に手渡したり、全校や学年による合唱をお聞きいただいたりしながら、感謝の気持ちとこれからもよろしくお願ひしますという気持ちを伝える。家庭や地域との絆を深める心あたたまる会となっている。



感謝の手紙を手渡す

5 成果と課題

(1) 成果

開校7年目と学校の歴史は浅いが、いわて型コミュニティ・スクール構想にそった学校経営の推進に努めてきたことにより、学校経営の重点である「確かな学力・豊かな心・たくましい体」の育成が具現化されてきている。特に、家庭・地域との連携・協働による教育活動は年々充実してきており、地域に根付く学校というコミュニティ・スクール構想の確固たる基盤が構築されてきている。

(2) 課題

現在見られる好ましい状況は、開校以来、歴代の教職員が努力し、築き上げてきた成果であり、財産である。現在の状況に満足することなく、改善を加えながらさらに高いレベルを目指して教育活動を推進していくことが、好ましい状況を維持・発展させていくことだと捉え、実践に取り組んでいきたい。